

キャラクター名  
佐々木アキヒロ

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	高校生	カヴァー	不良高校生
	オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36	%
出自	姉妹	経験	トラウマ	邂逅	自身	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	152
肉体	5	1	3			9	行動値	3
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	2		交渉		
回避	5		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
破壊の爪	白兵	9r+5	1	15		
	白兵	14r+5				2+4+5:CR値-3。コスト7。HP-3。
紅蓮襲爪撃100	白兵	17r+5		19		2+4+5:CR値-3。コスト7。HP-3。
	白兵	15r+5				3使用。2+4+5:CR値-3。コスト11。HP-3。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
佐々木南緒	P 庇護	N 不安		
佐々木咲知帆	P	N		
綾瀬真花	P 慕情	N 不安		
行方和臣	P 友情	N 不快感		
森本 玲	P 連帯感	N 不安		
龍川龍之介	P 有為	N 猜疑心		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
破壊の爪	7	3	MN	至近	Me	自動		
効果: S終了時まで素手のデータ変更。下記載。								
獣の力	2	2	MJ	武器	単体	対決		
効果: 攻撃力+[LV+2]。								
フルパワーアタック	2	4	SU		Me	自動	80%	
効果: そのR中、白兵攻撃力+[LV*5]、行動値0。行動値修正は他のEFに優先。								
炎神の怒り	4	3	MJ/R					
効果: 判定+[LV+1]d。MP終了時、HP-3。								
コンセントレイト:キュマイラ	3	2	MJ					
効果: 判定のCR値-LV。								
ハンティングスタイル	2	1	MN	至近	Me	自動	LV/1S	
効果: 戦闘移動を行う。他E、封鎖の影響を受けない。								
不燃体	★		PV	至近	Me	自動		
効果: 通常の炎や寒さによってダメージを受けない。エフェクトには効果は無い。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

幼少期、父親が母と妹そして自分を残して何処かへと消えてしまう。それが原因で自分と親しい人間がいなくなる事に強い恐怖を感じるようになる。以来、アキラは家族以外とのコミュニケーションを避けるようになってしまう。おかげでクラスでは少し浮いた存在になっている。しかしアキラは「それでいい家族さえいればそれだけで」と考えていた。

そんな折、高校2年の春にひよんな事から、クラスメイトである綾瀬真花と仲良くなる。と言っても困っていた所に手を貸しただけ。それだけで終わる関係のはずだった。だが綾瀬は、その後も事ある毎に話しかけてくるようになった。初めこそ少し鬱陶しく思うアキラだったが、いつの間にか物怖じしないその姿に心が惹かれていった。

夜、学校帰りの道を歩きながらアキラは考えていた。親しい人間がいなくなる事への恐怖は薄れていない。だけど綾瀬が話しかけてくれる度に、嬉しいと感じてしまう自分がある。この感情に向き合えば、きっとまた辛い思いをする。それが怖いのだ。

その時、ふと公園の方に目をやると2つの影があった。いつもなら気にしない様な事だ。しかし今日は違った。アキラは自分の好奇心を止める事が出来なかった。何故だかは分からない。きっと運命だったのだろう。その影に近づく。暗闇に目が慣れてくる。そこには化け物が人間を喰らっている姿があった。